

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

ガバナー月信
Vol. 12

To Club Presidents and Secretaries in District 2790(CHIBA)



時刻 TIME	変更時刻 WILL DEP.	行先/経由地 TO / VIA	航空会社 AIRLINE	便名 FLIGHT NO.	航空会社 AIRLINE	便名 FLIGHT NO.	搭乗口 CHK IN CRT	備考 REMARKS
18:05		SINGAPORE	AIR JAPAN	N0801	ANA	NH801	4B3 53	CANCELLED
18:15		HONG KONG	AIR JAPAN	N0811	ANA	NH811	4B3 32	CANCELLED
18:20		BEIJING CAPITAL	ANA	NH955			4B3	CANCELLED
18:25		BANGKOK (BKK)	ANA	NH805			4B3 52	CANCELLED
18:30		WUHAN	ANA	NH937			4B3	CANCELLED
18:30		AUCKLAND	NEW ZEALAND	NZ90			J	CANCELLED
18:35		SHANGHAI	ANA	NH921			4B3	CANCELLED
18:40		LOS ANGELES	SINGAPORE	SQ12			G	CANCELLED
18:50		SHENYANG	ANA	NH925			4B3	CANCELLED
18:55		HUOHUINH CITY	ANA	NH833			4B3 51	CANCELLED
19:00		SINGAPORE	SINGAPORE	SQ11			G	CANCELLED
19:30		SHANGHAI	AIR CHINA	CA920			F	CANCELLED
19:55		HONOLULU	TURKISH	TK9146				CANCELLED
20:00		SEOUL	AIR BUSAN	BX117			J 32	CANCELLED
20:00		CHONGQING	AIR CHINA	CA434			F	CANCELLED
20:10		HONOLULU	ANA	NH184			4B3 54	CANCELLED
20:40		TAIPEI	EVA AIR	BR195	ANA	NH5805	I	CANCELLED
20:40		TAIPEI	AIR CANADA	AC6542	THAI	TG6353	I	CANCELLED
21:00		SHANGHAI	AIR CHINA	CA924			F	CANCELLED
21:05		BEIJING CAPITAL	AIR CHINA	CA114			F	CANCELLED

成田空港第1ターミナル 南ウイング 「CANCELLED」の文字が並ぶ、緊急事態宣言直前のフライトインフォメーションボード

国際ロータリー第2790地区
ガバナー 諸岡 靖彦
地区スローガン「ロータリーから千葉を元気に」
ロータリー特別月間／ロータリー親睦活動月間

6

2020
June

ロータリー運動の神髄は受け継がれる



国際ロータリー 第2790地区

2019-20年度 ガバナー 諸岡 靖彦 (成田RC)

去る2月8日・9日に開催された当地区大会に、国際ロータリー（R I）会長代理として出席された元R I理事、ロータリー財団管理委員である北清治さん（第2770地区パストガバナー）が語られたお話をベースにして、**新型コロナウイルスに負けないロータリーの力**について考えてみました。国際ロータリーの現況報告の中で、北さんは

1 「昨年4月の規定審議会で7月1日からいよいよローターアクトクラブ（RAC）が新たにR Iに加盟することの意義について、**ローターアクターの先進的な発想と行動力**が近未来のロータリーの担い手となる」と期待を表明されました。

2 **ロータリー財団の強力な資金力**（報告の透明性を含む）と、その資金が投じられてきたポリオ根絶や世界平和フェロシップなどの奉仕プログラムと、全世界のロータリアンが進める人道的奉仕の補助金プロジェクトについて、アメリカの非営利団体の格付けを行う団体チャリティ・ナビゲーターによって、12年連続で最高の4つ星評価を受けていることを報告されました。

3 大会初日の地区指導者育成セミナーでは、「ロータリーのビジョン声明と新しい戦略計画」について、2020-21年度に新たに導入された新しい戦略計画が、より大きなインパクトをもたらし、参加者の基盤を広げ、参加者の積極的な関わりを促し、適応力を高めるものであり、これらはロータリアン一人一人の奉仕の機会となり、ロータリー・リーダーとしての最大の成長の機会となることを強調されました。

次年度に日本のロータリーが100周年の節目を迎えます。R Iはこれを上回る115年の歴史があり、ポール・ハリスや米山梅吉の両先達については何度か月信にも取り上げました。ロータリーはその歴史の中で、2次にわたる世界大戦と1929年の大恐慌という3度の
大混乱期を乗り越えて、上記の立ち位置を獲得したわ

けです。平穏な時代は競合者が多く、他の団体との競争や折り合いをつけるリーダーシップが成果を上げましたが、大混乱期は**組織の内部を固めるリーダーシップ**こそが時代を突き破る成果をもたらしました。

4 北さんは地区大会の最後の講評の結びに、大恐慌の嵐を突き破るリーダーシップとして**四つのテスト**を提唱したハーバート・テラーの事績について語りました。この時点では新型コロナウイルスが大恐慌を引き起こすとは、まだ誰も見通せていなかったと思います。

1920年代からアメリカを襲った大経済パニックの中で、従業員250名のクラブ・アルミニウム社の再建を託されたのがテラーでした。従業員の心を企業防衛に結集するため、正義こそ力の結集の源であり、それを全員が認識して、従業員が**一体となって行動する**ような管理運営を貫くために導入されたのが、四つのテストであった、というわけです。

商品の誇大宣伝は改め、商品の特徴や強み・弱みを明らかにして再建が進みました。5年で再建に成功し、10年後には衆目が認める一流企業に成長し、15年で超一流の会社と評価されるようになったそうです。四つのテストの評判が知れ渡り、「公正」「善意」「友情」「皆のために」という精神がロータリー世界に浸透してゆきました。

さて、コロナに苛まれている同志の皆様、事業の基盤を揺るがせている状況がいつになったら改善されるのか、皆目見当が付きません。事業の存続と立て直しのために、一時はすべての時間とエネルギーを集中させなければならない事態にある会員の方々が少なくないと想像します。それは「生きるために必要なこと」だ、とは思いますが。

ただそれだけで果報はもたらされません。際限のないただ一つのことによって囚われてしまうとアリ地獄にはまります。思考も悪循環に陥ります。

5 貧しても窮することのないように、**心の拠り所としてロータリーを役立てて欲しい**のです。ロータリアンは共通の理念を有し、それぞれの事業経営、専門職業のリーダーです。大混乱の時にこそ思いを共有し、お互いの知恵やアイデアを素直に交換出来る「有志」の集まりです。見えない未来に歩を止めないために、「闇夜の一点」を点じて欲しいのです。

ロータリーの神髄である友情は、受け継がれてゆくものだと信じて欲しいのです！



1年を振り返って、思うこと

国際ロータリー第2790地区
2019-20年度 地区研修リーダー
パストガバナー **関口 徳雄** (浦安RC)

一昨年、私は「寺嶋年度」の研修リーダーとして、表記タイトルを平穏な心持ちで寄稿したのですが、この度の原稿は、自宅に引きこもり、思考が混乱している中で筆を執っている次第です。

さて諸岡靖彦ガバナー年度の研修リーダーとして、地区のためガバナーのために、自らの言動においてどれだけお役に立てたのか、忸怩たる思いであります。この1年、前半は安房方面を襲った台風による被害により、我が地区は他地区から多額の義援金を受け取るという過去に経験のない「奉仕される側」の立場となりました。

また後半は、日本全国のみならず世界中が未曾有の国難といわれる新型コロナウイルス感染症による災難に直面し、感染を防ぐために社会生活、日常生活が制約される中で、ロータリーも例外ではなく、ロータリアンの生命身体の安全を第一に配慮しながら、クラブや地区の衰退に歯止めをかけるにはどうしたらよいか、どのように舵を取るべきかの判断をしなければならぬ時の地区指導者としての諸岡ガバナー（漆原撰子ガバナーエレクトも）の心労はいかばかりか察するに余りあるものでした。

特に3月以降の3大セミナー、各委員会および大事な各種セミナーの予定が差し迫った中での、実施か延期か、はたまた中止かの苦渋の決断は、想像を絶するものであったでしょう。また自治権があるはずの各クラブからの例会を中止すべきか否か、特に3回以上続けての例会中止の禁止条項【標準ロータリークラブ定款第7条第1節(d)】の諮問に対する判断も同様であったと思います。

そこで私は思うのですが、このたびほど地区およびクラブの指導者としてのリーダーシップの力量が問われた機会はないものと思います。そしてまた、全てのロータリアンが例会を含めた各種会合について、Face to Faceだけでなく、ウェブ会議、オンライン会合の必要性にも気付かされたものと思います。

申し上げたいことは、我々ロータリアンには「奉仕」「親睦」「多様性」「高潔性」「リーダーシップ」を構成要素とする「中核的価値観」があります。今まさに、この価値観に基づく発想をしなければならないのです。

言うまでもなく、ロータリーの中核となる価値観は、ロータリーという組織内において、クラブを活性化させ、そしてロータリーをより発展させるために、ロータリアンとして、何を優先させ、どのような行動を取

るべきかという指針を提供するもので、組織文化の指導原理を表すものであって、ロータリー指導者のリーダーシップの意図と方向性を示す原動力となるものといわれているものだからです。

今、政府主導による「緊急事態宣言」の下、仕事業務の縮小要請の結果、経営不振による退会者の増大、それによるクラブの弱体化への懸念、加えて、事実上なされていた3回以上続けて例会を開催しない、できない、という定款違反の状態をいかにしようとしたものか。

一方で重要な3大セミナー、各委員会、財団、米山記念奨学会の会合、そして各グループのI・Mなどの、変則的開催か中止かの混迷、それによる地区およびグループ内の閉塞感の蔓延。さらには新型コロナウイルスという見えない敵に対する不安な戦い。そしていつ収束するか判然としない苛立ち等、ロータリアンとしてかつて経験したこともない現実の中で、諸岡ガバナーは自らを「凡人」として謙遜しながら、「闇夜の一灯」の行き方に例え、ロータリーの中核的価値観の発想に思いを致し、素晴らしいリーダーシップを発揮しました。

まず異例とも言うべき「ガバナー月信 号外」を発信し、「緊急事態宣言」を受けて、諸岡ガバナーは当地区ロータリアンに対し、今後の会合のあり方（ウェブ、オンライン）を含めた方向性を毅然として打ち出したことです。

とりわけ例会中止によるクラブの衰退より、第一にロータリアンの生命身体に対する安全を優先させるべく、例会3回以上続けての開催中止を容認し、地区の各種委員会、米山、財団の重要な会合の延期中止やI・Mの中止を指示しました。これらの判断は、まさに中核的価値観を根底にした強力なリーダーシップを発揮した証左でしょう。

この度の厄難により、世界中が右往左往し、混沌とした現状を初体験した1人のロータリアンとしての提案ですが、先の台風被害の際もそうでしたが、オンライン会合の取り入れは当然のこととして、この種の災害に即対応するロータリーの奉仕活動とはどうあるべきか見定めるべく、地区に職業分類から土木、電気、運輸 建設、医師、薬剤師、金融、保険、弁護士、税理士その他の専門家を選び、「危機対応専門委員会」ないしは「特殊危機管理委員会」を立ち上げ、ガバナー、時にはクラブ指導者に対し、的確に意見具申できるような体制を日頃からとっておく必要があるのではないかと思います。



諸岡靖彦ガバナー一年度を振り返って

国際ロータリー第2790地区
2019-20年度 地区研修サブリーダー
パストガバナー 寺嶋 哲生 (浦安RC)

2019-20年度について、地区研修サブリーダーおよびロータリー研修委員会委員長として、第2790地区の研修系3委員会の1年について記します。

まずは諸岡靖彦ガバナーにおかれましては、1年間卓越したリーダーシップを発揮されましたことに、衷心より敬意を表します。諸岡年度の前半は台風や集中豪雨が3度にわたり来襲し、県南を中心に甚大な被害を受けました。

また、2020年となってからは世界中にコロナウイルスの感染が広がり、第二次世界大戦以来の人類の危機に直面しております。ただ今のところ、この終息は全く見通せず、日々不安ばかりが増幅する状況にあります。第2790地区が始まって以来これほどの非常事態が連続した経験はなく、前例のない事態に対し毅然として対応された諸岡ガバナーのリーダーシップと、それをサポートされた堀口路加地区幹事長をはじめとする成田RCの皆様のご尽力には、衷心より感謝申し上げます。

さて、諸岡ガバナー一年度における研修系3委員会は、研修リーダー（関口徳雄パストガバナー）が直轄する委員会として設置されました。ロータリー研修委員会は柏RC寺嶋哲生委員長・柏東RC中村俊人副委員長・他委員2名、理念研修委員会は千葉西RC海賢勘一委員長・他委員3名、RLI推進委員会は市川東RC山下清俊委員長・他委員4名によって構成されました。3委員会は常に活動を共にし、全員が3委員会全ての事業遂行に当たりました。

3委員会最初の任務は、諸岡ガバナーエレクト主催による3大セミナーのプログラム立案と実施支援でした。PETS1回目では海賢委員長をコーディネーターに、諸岡ガバナー・関口研修リーダー・寺嶋委員長・中村副委員長・山下委員長をパネリストとしたパネルディスカッションを実施し、PETS2回目においては各クラブの会長エレクトによるグループディスカッションを2セッション実施して、会長年度に向けての抱負や事業計画など活発な意見交換を行いました。

諸岡ガバナー一年度スタート後の3委員会の実施事業は、以下の通りです。

- 2019年7月30日（千葉市民会館・理念研究委員会担当）：2019年規定審議会報告（2019年の規定審議会による組織規定の変更点について、第2790地区規定審議会代表議員である山田修平パストガバナーによる解説）
- 2019年11月10日（千葉スカイウィンドウズ東天紅・理念研究委員会担当）：地区先達と語る私のロータリーの集い（土屋亮平パストガバナーによる講話と意見交換会）
- 2019年9月～11月（地区内各所・ロータリー研修委員会担当）：地区内各グループにおける情報研修会支援（各グループの要請により、パネリスト・DL・講師・講評などの紹介や派遣）
- 2019年7月～12月（千葉市民会館・RLI推進委員会担当）：RLIキックオフセミナーとスキルアップセミナー（DLによるRLI運営法検討とスキルアップ研修、計4回）

一方、コロナウイルスの影響を受け、2020年2月～6月に予定されていたRLIおよび地区先達と語る私のロータリーの集い（白鳥政孝パストガバナーによる講話と意見交換会）については中止のやむなきに至りました。円滑な事業の実施のため、それぞれの任務に当たられた3委員会の委員の皆様には、衷心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルス禍の 中で終える1年を振り返って



2019-20年度
地区幹事長 **堀口 路加** (成田RC)

順調に3大セミナーが終わり、諸岡靖彦ガバナー年度が始まって早1年。ガバナー公式訪問が進む中、2019年9月の台風15号、10月の19号・21号による暴風雨と豪雨で県内各地に甚大な被害がもたらされ、いまだに復興道半ばの地域があります。

地区に寄せられた支援金は、4月27日現在で61,706,229円。既に報告した通り、第1弾として第6グループに1,612万円、第7グループに330万円、奉仕プロジェクト統括委員会に200万円を配分。その後、3月から4月にかけて第2弾として富津シティRCに660万円、鋸南RCに1,900万円、館山RCに350万円の配分をさせていただきました。

ガバナー公式訪問に何度か随行し、多くのクラブ会長、幹事からお話を聞く機会を得、クラブの運営も自分が属する組織の経営と似た側面があること、地域で元気に輝きを放っているクラブは何が違うのかを目の当たりにしました。

そして、年明けから一気に世界中を巻き込んだ新型コロナウイルス禍。いくつかの地区で地区大会が中止になったことを考えると、当地区の地区大会が開催できたことは幸いなことでした。現在、新型コロナの感染拡大はロータリーの運営、行事、研修セミナー等に多大な影響を与え、クラブ例会までも中止されている状況です。しかしオンラインでの例会・会議等新しい動きが随所で始まり、ロータリーとしての医療・福祉機関への支援活動が進んでいることは素晴らしいことです。

やがてこの災厄は必ず収まるはずですが、社会経済のV字回復は難しいことでしょう。こうした状況下だからこそ、孤立するのではなくつながりを大切に、ロータリーの中核的価値観を手掛かりにして、柔軟な発想で危機を打開していくことが求められるのではないのでしょうか。

たくさんのロータリアンとの出会い、さまざまな経験に感謝とともにお礼を申し上げます。

1年間を振り返って



2019-20年度
管理運営統括委員会
統括委員長 **堀内 正一** (木更津RC)

2019-20年度管理運営統括委員会は「会員増強・維持拡大委員会」「フェロシップ親睦活動委員会」「広報・公共イメージ向上委員会」の3委員会で活動してまいりました。

「会員増強・維持拡大委員会」は、会員増強・維持拡大セミナーを8月31日に千葉で開催しました。このセミナーの第1部では寺嶋哲生パストガバナーのご尽力により、第2840地区田中久夫パストガバナーに「ロータリーのススメ～無所属の時間を味わう」というタイトルでご講演をいただきました。

田中パストガバナーには、まさにマローニー会長の言われる、ご自身が中心になって戦略的・革新的な方法でどのように実践されたかをご説明いただきました。その結果、田中パストガバナー所属の高崎ロータリークラブ会長時51人もの会員増強をされました。

大幅増員への鍵は、毎月の若手会員を中心とした会員候補の洗い出しと、その場ですぐに候補者の方に翌日のアポイントを取るという積極的な行動が大切とのことでした。

セミナーの第2部では、各クラブから事前にいただいたアンケート結果を踏まえ、

1. 各クラブの年度末会員目標数
2. ロータリークラブの魅力とは？
3. 女性会員300人・若手会員獲得に向けた増強施策は？

以上の3点に絞り熱くディスカッションしていただきました。

今回のセミナーで、第1部の田中パストガバナーのご講演、第2部のディスカッションを通じまして、参加者の皆様には会員増強へのやる気、明日へつながる気持ちを共有できたと思います。

次に「フェロシップ親睦活動委員会」ですが、ロータリーの原点にある親睦のあり方を明確に示し、地区内の各フェロシップ活動を推奨し、交流の促進、会員の維持に努めるよう活動してまいりました。

現在第2790地区の親睦活動は、野球リーグ、二輪走友会、女性会員交流会、スリランカクラブ等の同好会がごさいます。今後は「ロータリー親睦グループ認定基準と奨励金基準」について、皆様が使いやすいよ

うな内容にし、さらなる同好会結成を促進し、会員同士の友情を深め、会員の維持拡大に努めてまいりたいと思います。

「広報・公共イメージ向上委員会」では、クラブの情報発信として、第2790地区内の4クラブのホームページ作成にお手伝いをさせていただきました。

千葉県内でもオリンピック・パラリンピックの競技が8種目行われ、また各国のキャンプ地が現在までに14カ所あります。

今後、次年度と連携しロータリーを広報し、地区スローガンであります「ロータリーから千葉を元気に」してまいります。

最後に、管理運営統括委員会3委員会が連携し、地区目標の会員数3,000人、女性会員10パーセントの300人、3クラブの新設に対し、災害の影響もあり大変厳しい状況にあります。引き続き皆様のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

1年間を振り返って



2019-20年度
奉仕プロジェクト統括委員会
統括委員長 **関 一憲** (勝浦RC)

三神秀樹社会奉仕委員長、高橋潤一職業奉仕委員長、吉田朋令国際奉仕委員長、山本美代子青少年奉仕委員長をはじめ、各委員会の委員の皆様を支えていただいた1年間でした。4つの委員会が、クラブ活性化に向け積極的に活動してくださいました。心より感謝いたします。

統括委員長としては、力不足を強く感じる1年間でした。台風直撃で、千葉県は風災および水災により大きな被害を受けました。被災された方々には改めてお見舞いを申し上げます。

被災エリアの中央部に事業所を構える私自身が被災者であり、復興推進の旗振り役の立場でもあり、人生初の被災の中、どうしたらよいか分からないことだらけでした。被災地支援に対して、行動が遅かったことも事実だと思います。地区の初動の遅さにご不満を持たれたロータリアンもおられたのではないのでしょうか。

そんな中、他地区から寄せられた支援金が、現在とても有効に活用されていることをご報告いたします。特に、行政やNPO・NGO団体が被災地を引き上げた後、本当に取り残された地域の切実なニーズ（生活

困窮者・独居老人などが中心) に対して、地元で根差したRCがまさにロータリーらしい支援を続けておられます。特に風災被害に関する復興は先が長く、支援の継続性が必要です。

後半は新型コロナウイルスの影響で例会等が開催できず、どのクラブも地区補助金申請にご苦労があったと思います。当委員会も振り回され、本来の意味でクラブへのお手伝いが思い通りできていなかったことがとても心苦しく感じております。

多くの反省はあるものの、この1年間の経験は今後の第2790地区の活動に対して大きな意味や価値を持つでしょう。皆様のご協力に心より感謝いたします。

1年間を振り返って



2019-20年度
青少年プログラム統括委員会
統括委員長 **中澤 良夫** (四街道RC)

今年度の方針は、青少年プログラム各委員会同士が互いに相乗効果を発揮できるようにすること、危機管理に気を付けること、予算の費用対効果でした。

8月のインターアクト年次大会では、米山委員会にご協力いただいて、米山学友、ローターアクターにてインターアクターの国際理解を養うワークショップの開催、顧問教師会へ青少年各プログラムの紹介等、ワランチームで臨み良い結果を出せました。

2月のRYLAセミナーでは、各委員長を実行委員会に加えてセミナーを計画し、インターアクター、青少年交換生、各学友、各ロータリークラブより参加の青少年約70人の参加にて、効果的なセミナーを開催することができました。

青少年交換委員会では、プログラム卒業生からなるROTEXの活性化に取り組みました。

ローターアクトでは、各委員会への助力に加えて2月には台湾、韓国より約40人ものローターアクターを当地区に迎えて親睦を図りました。ウエルカムパーティーには諸岡靖彦ガバナー他大勢のロータリアンにも参加いただき、盛大に行われました。

また、9月の台風15号被害時には、5人が手弁当にてボランティア活動を行い、その後日にも奉仕プロジェクト委員会の呼び掛けに応じて、2回目のボランティア活動を行いました。

そして現在、新型コロナ禍により混乱が続いており、青少年交換生の早期帰国問題、インターアクト指

導者講習会、ローターアクト年次大会等が中止になり今後の委員会運営を皆で探っております。

ローターアクトでは、4月15日に鴨川ローターアクト例会をオンライン例会にして、関係ロータリアンにも参加していただき実施しました。結果、オンライン例会は有効に機能すると判断し、各ローターアクトクラブ、各委員会にもオンライン会議ができるよう体制を整えていくこととしました。

最後に、充実した委員会運営をしていただいた青少年プログラム各委員会の皆様、ご指導いただいた地区役員の皆様、ご協力いただいたロータリークラブ各位に感謝申し上げます。

1年間を振り返って



2019-20年度
ロータリー財団統括委員会
統括委員長 **櫻木英一郎** (千葉RC)

本年度は災害の年度であり、地区も各委員会もクラブもその対応に追われました。この状況下で、地域を対象に活動するクラブと、クラブを対象に活動する地区委員会とが、それぞれの使命感を持って活動したと思います。以下が当委員会の本年度の対応と活動です。

I 台風被害に対して

- 1) 地区補助金の緊急拠出…地区内でボランティア隊を組織することを奉仕プロジェクト委員会に提案し、その費用として地区補助金の予備費の緊急支出をTRFに認めてもらった。
- 2) 新設の災害救済補助金…独立新設された同補助金に、日本で初めて申請を試みた。前例もなく大変な苦勞の末に申請書が完成したが、その時には同基金に資金がなく、申請はできなかった。
- 3) 代替の特別補助金…財団室のご尽力により、TRFから代替の特別補助金が提示された。関係書類の暗号化解除、英文和訳などに大変苦勞したが、約2万5千ドルの補助金を受けることができた。上記1と2にはグローバル補助金委員会が大いに活躍した。補助金は奉仕プロジェクト統括委員会に託した。
- 4) 災害対策特別委員会を提案…今後もあり得る大災害時に、地区が速やかに初動に移れるように、主要委員長による「災害対策特別委員会」の枠組みを作っておくことをガバナーに提案。今回設立さ

れた同特別委員会が支援活動を主導した。

II 新型コロナウイルスによる事態に対して

- 5) 地区補助金申請の期限を延長…会合自粛による各クラブの活動の停滞でクラブの申請決定が遅れると推測し、補助金の申請期限を1カ月延長した。地区補助金は申請を全部一括してTRFに申請する。1つでも不可があると全体が否認されるので各クラブへの事前のアドバイスが必要だが、そのための期間を短縮することになる「期限延長」は大いに危険な決断だった。
- 6) 財団奨学生の派遣について…新型コロナ禍が世界中に蔓延して、各国が渡航制限、入国制限を設ける事態に至った。この事態でも応募者の海外で勉学したいとの強い希望と、ロータリーファミリーを育てるRI、TRFの使命感により、派遣の実現に向けて可能な限りの努力を続けている。4月7日の緊急事態宣言発出により面談での選考会を中止し、代替案の検討と派遣事業の可能性を探っている。

III 通常の委員会活動について

- 7) 寄付金…3年後に活動資金となる年次基金への寄付がない「寄付ゼロクラブ」は4月末日でゼロになった。当委員会は寄付に関する情報を周知する役割で、各クラブに直接に寄付を要請するのはガバナー補佐の役割であることを再確認したい。
- 8) 地区補助金…本年度は38件。次年度用の申請は減少と予測。
- 9) グローバル補助金…クラブ資金によるグローバル事業への参加が2件。DDF使用は2案件が計画中。
- 10) 財団奨学生…GG2人、DG1人を派遣中。次年度への応募の現状はGG2人、DG1人。
- 11) 財団奨学生学友会…次年度の全国学友大会の主幹と当地区財団学友会50周年の準備を行ってきたが、新型コロナウイルスの影響で次年度へ延期になった。
- 12) ポリオプラス…昨年は世界(2カ国)の新発症が5倍に増えた。ポリオ根絶は近くて遠い。
- 13) ロータリーカード…クラブカード保有率全国トップを本年度も継続中。
- 14) 平和フェロシップ…カウンセラーを引き受けたフェローは3人。

IV 1年を振り返って

- 15) 業務内容の再検討…委員会の業務を問い直し、活動の基本的な枠組みを考え直す契機とする。
- 16) 当委員会の位置付け…RIではなくTRFのルー

ルで動き、それぞれジャンルが違う8部門を擁する当委員会は、1つの地区委員会の域を超えると考える。

以上、1年のまとめです。

1年間を振り返って



2019-20年度
米山記念奨学委員会
委員長 **鈴木 莊一** (君津RC)

皆様におかれましては、日頃より米山事業に対する温かいご理解ご協力をいただき感謝申し上げます。

本年度より、長年地区米山事業の中心だった富一美委員長からバトンを受け、慣れないながらも委員の皆様や世話クラブの皆様、地区より出向されているパストガバナーの皆様にご指導いただきながら、何とか1年を終えることができました。皆様に感謝申し上げます。

上半期は予定通り4月にオリエンテーション1回、5・6月には奨学生研修会2回、7月カウンセラーセミナーと8月クラブ委員長会議、9月の地区BBQ大会、10月の米山梅吉記念館視察研修、12月大忘年会、1月の新年度選考・新年会と、1年間を通じて世話クラブの皆様はもとより、地区会員の皆様に年間を通し

て温かく見守っていただきましたこと、身を持って実感しました。

昨年9月の台風災害に始まり、年初からは新型コロナウイルスの猛威に見舞われ、(公財)米山奨学会事務局の皆様のご協力を頂きながらの委員会運営でした。特に台風災害では在籍していた米山奨学生へのケアが十分でなかったのではないかと反省もございませぬ。大切な将来のロータリーの財産を預かる身として、気を引き締めなければという思いを新たにしました。

また、1年間頑張った奨学生への3月の終了式、新年度に選考された奨学生に従来通りの4月オリエンテーションを開催できなかったことが悔やまれます。

今回の教訓を生かし、従前の手法にとらわれないオンライン会議・セミナーも、有事の際は準備し試みたいと思いますが、人と人との間をつなぐロータリーという部分は大事にし、その中で奉仕の理想を実践し、お互いが自らを発見し、磨いていける関係をと考えます。

今年度の諸岡靖彦ガバナーのスローガンは「ロータリーから千葉を元気に」です。もっと自分の周りを良くしようというのがロータリーの原点の一つと考えますと、次年度も米山奨学生を中心に、地区の会員の皆様に関わる視点と「実践する」事業に重点を置き、“機会の扉を開き”、新しいメッセージを地区に、地域社会に発信していきます。米山事業を通じ「地域に存在感のあるロータリー」になるよう取り組んでまいります。

最後に、1年間ご協力いただきました地区米山記念奨学委員の皆様へ、心より感謝申し上げます。

「チャリティーコンサート」チケット代の取り扱いについて



2019-20年度
青少年奉仕委員会 (学友会担当)
委員長 **山本 美代子** (習志野中央RC)

3月に被災地復興支援チャリティーコンサートを予定しておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止といたしました。地区大会では、皆様にチケットご購入のお願いをいたしまして、たくさんの応援をいただきました。チケット販売額は少額になりましたが、ロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会に150,000円を支援金として送金

させていただきました。

ご支援をいただきましたことで、次世代を担う青少年たちは、進学という希望に向けて、未来への夢を膨らませることができると信じております。今後、継続性を持ってつなげていけたら幸いです。皆様のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

財団学友、米山学友、ローターアクトの皆さんが、今回のチャリティーコンサートに向けて準備を進めておりました。中止という残念な結果になりましたが、次年度も再度、力を合わせて取り組みたいという前向きな思いがあるようです。その節は皆様どうぞご協力をよろしくお願い申し上げます。

ガバナー補佐 1年間を振り返って



第1グループガバナー補佐
麻谷 和也 (市川南RC)

今回の原稿を依頼された3月末日の現在、新型コロナウイルスの影響により、さまざまなイベントや会議が中止となっています。また、多くのロータリークラブの例会も中止となっている中、私たちガバナー補佐主催の会議なども中止の判断をせざるを得ず、どのタイミングで、どのようにメッセージを発信し、多くの人に納得してもらおうか、危機管理の難しさを考えさせられました。

昨年も、台風や強風などの影響で千葉県は甚大な被害を受けました。世界的に見ても、地球温暖化の影響で、気温上昇や大型台風など、さまざまな被害が後を絶ちません。このまま各国が何も手を打たないと、毎年のように、これまで経験したことのないような災害に見舞われることが予想されております。

今、私たちがができることは、災害時にメールやSNSやFAXなど人と接しなくてもコミュニケーションが取れる手段の構築だと思います。今回の騒動はロータリークラブの活動内容や例会の在り方とは何かを考えるきっかけになるかもしれません。



第2グループガバナー補佐
青木 忠茂 (船橋RC)

ガバナー公式訪問を7月と8月に受け、6クラブが活動への熱意を示してスタートしました。8月24日に開催した、サッポロビール千葉工場での第2グループと第4グループの合同会長・幹事会、家族会は、クラブを越えてつながりを深める貴重な機会となりました。

親睦から奉仕への道程を考察するために、関口徳雄地区研修リーダーに講演していただき、寺嶋哲生地区研修サブリーダー・研修委員長と研修3委員会のご指

導で情報研修会を9月17日に開催しました。

2月4日のI・Mでは、東京城東RC会員で船橋屋会長 渡辺孝至氏の「子育てに惜しみなく注がれる“母の慈愛”これこそロータリーの心の原点」と題した講演に続いて、次年度クラブ会長による抱負発表を行いました。

新型コロナウイルス感染予防で休会となり、年間計画に沿った任務を遂行できなかったことは心残りですが、この経験をこれからの活動に役立てられるよう努力してまいりたいと考えます。皆様のご指導とご協力を感謝いたします。



第3グループガバナー補佐
鵜沢 和広 (千葉若潮RC)

諸岡靖彦ガバナーのスローガン「ロータリーから千葉を元気に」をいかに実践するか、情報研修会やI・Mでいかに会員のモチベーションを上げていくかを試行錯誤しながら、第3グループのガバナー補佐としてのスタートを切りましたが、波乱万丈の1年となりました。

滑り出しは順調で、第3グループが中心となって参加する千葉市の親子三代夏祭りの神輿巡行、そして情報研修会とこなしてまいりましたが、その後は千葉県に大きな被害をもたらした2つの台風でガバナー公式訪問に影響が出たり、新型コロナウイルスが広まる中、何とかI・Mを開催できましたが、その後は各クラブの例会等が中止となり、ガバナー補佐としての役割を全うできるかどうかと懸念しております。

オリンピックの延期も決まり、ロータリーの国際大会も中止になり世界全体が自粛ムードの中、これからは次年度への引き継ぎをして、次年度のスタートがうまくいくようにお手伝いすることが、残された私の使命と思っています。



第4グループガバナー補佐
時田 清次 (市原中央RC)

2019-20年度第2790地区のガバナー補佐になって良かったと思っています。今までクラブ・地区の活動が多かったのですが、ガバナー補佐をすることにより、クラブ間の横のつながりの大切さを学びました。

R I テーマ「ロータリーは世界をつなぐ」を実現しようと、最初はグループ内の名簿を作ろうと会長・幹事会で話を進めました。個人情報などの問題がありましたが、クラブ会長のリーダーシップにより作成し、情報研修会の時に配布することができました。これにより第4グループ内のクラブの結束が強化でき、ロータリークラブの良いところであるネットワークを拡げる一助になったと思います。

またガバナー補佐の主な事業として、「情報研修会」[I・M] が新型コロナウイルスの影響を受けずに成功したことで安堵しています。

ガバナー補佐の残りの期間、第3・第4グループの合同事業ができるように準備を進めています。実現に向けて、クラブ間の横のつながりを強化できるように微力ながら力を注ぎたいと思っています。



第5グループガバナー補佐
小川 義則 (袖ヶ浦RC)

第5グループは例会日が同じ曜日のクラブが3カ所あるため、昨年7月1日からグループ内クラブ訪問を始めました。初回はガバナー公式訪問がスムーズに開催されることを目標としたお願いをするために訪問させていただきました。

しかしながら、情報研修会計画中に台風15号・19号が千葉県南部を襲い、今までにない甚大な被害を受けました。その上停電が長引き、会長・幹事会も中止となりましたが、復興の合間にグループの協力を得て何とか開催することができ、助かりました。

その後、I・Mの準備をし、やっと開催のめどが立

ち、ぎりぎりの2月26日に思い切って開催を決定したものの、同日午後に政府より集会の自粛要請が出たことで、やむを得ず中止としました。それ以降、各クラブも例会が中止になり、いまだに見通しが立っていない状況です。

しかし悪いことではありません。第5グループでは富津シティRCに災害支援金をいただき、地域の復興に向けて協力ができました。また、地区会議に参加することにより、諸岡靖彦ガバナーの行動力と決断力、そして地区委員のロータリー運営への献身的な協力、それをまとめる堀口路加幹事長、そしてガバナー事務所など、ロータリーの運営内容を見ることができ、私にとって大変勉強になりました。残念なのはハワイの国際大会が中止になったこと。

大変な状況の中スタートする第5グループ窪田謙ガバナー補佐、2020-21年度よろしく願いいたします。



第6グループガバナー補佐
川名 光俊 (館山RC)

何事もないかのようにツツジの花が咲き、日一日と色鮮やかに染まっていく今日、第6グループガバナー補佐の1年間の務めをようやく振り返れる時が来たようです。

諸岡靖彦ガバナーエレクトの招集により、2018年9月9日にガバナー補佐エレクトの皆様と初めてお会いさせていただきました。それから19カ月、長いようで本当に長かった年度だったように思えます。

年度スタートをして1カ月足らずで、台風15号が千葉県を急襲し、予定の公式訪問の延期(9月11日・20日)、台風19号大雨による情報研修会の中止(10月16日)、ようやく予定通り開催されたI・M(1月25日)の終了と同時に、新型コロナウイルスの感染拡大により、諸々の会議の延期・中止が続くという異常事態で年度が終わろうとしているのが誠に残念であります。

諸岡靖彦ガバナーが提唱された「ロータリーから千葉を元気に」という新しいスローガンの下、ガバナー補佐の大役を務めさせていただいたこと、諸岡靖彦ガ

バナー・堀口路加地区幹事長をはじめ、地区役員そして同期の13グループガバナー補佐の皆様方に心より感謝申し上げます。

また、台風や大雨により大きく被災をした第6グループに対し、地区内外からのボランティアのご協力、全国のロータリアンから多くの支援金をいただきましたこと、重ねて御礼申し上げます。

次年度は第6グループより第2790地区初めての女性ガバナーである漆原摂子さんを輩出することになっております。皆様の熱いお力添えをいただけることをお願いし、1年の締めくくりとさせていただきます。

ありがとうございました。



第7グループガバナー補佐
堤 正広 (東金ビューRC)

補佐エレクトとして、補佐会議、会長エレクト研修セミナー、地区研修協議会に出席し、諸岡靖彦ガバナーの方針や地区運営の考え方などについて、研修を重ねながら、7月からの本格的な補佐としての活動が始まりました。第7グループは8クラブで構成されており、補佐としてクラブ間の円滑な連携を図りたいと考えておりました。

前半は、就任の挨拶、事前訪問、ガバナー公式訪問とグループ間を走り回り、補佐の大変さを実感いたしました。そんな中、9～10月の台風15・19・21号と、立て続けに未曾有の被害が地区内で発生し、第7グループ会員の安全確認、被害の確認に多くの時間を費やしました。

台風15号からの復旧の合間を縫い、9月24日東金文化会館にて、メインテーマを「クラブの活性化」と位置付け、「ロータリー情報研修会」を行うことができました。

2月の地区大会は無事開催されましたが、大網RCの20周年、2カ月ごとの会長・幹事会、親睦ゴルフ大会等は、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴う自粛要請や参加者の健康被害の防止の観点から中止にいたしました。

また、3月開催に向け準備を進めておりましたI・Mは、一度は5月に延期しましたが、国の緊急事態宣

言により残念ながら中止にいたしました。

ガバナー補佐としての活動は、2月後半からは自粛してメールと携帯だけの活動となりましたが、他クラブの多くの会員や補佐とお知り合いになれたことを感謝いたしております。

最後に、新型コロナウイルス感染症の早期の解消をお祈りし、解決に向けさまざまな分野でご尽力されている関係者の皆様に敬意を表します。



第8グループガバナー補佐
石井 哲也 (銚子東RC)

今年度も残すところ1カ月足らずとなり、一昨年の秋に引き受けたガバナー補佐の任期を終えようとしています。ガバナー補佐主導にて公式訪問前の事前訪問やロータリー情報研修会等を実施してほしいとの要請にどうしたものかと思いましたが、皆様のご支援の下、今までとは違う形で開催し無事終了することができました。

しかしながら、新型コロナウイルスという難敵の出現により、グループのゴルフは中止、I・Mは延期となり、いまだ開催のめども立っていませんが、なんらかの形で開催したいと思うもののどうなることやらで、ガバナー補佐としての役割を十分に果たせたのかと問われたら疑問符の付くところであります。

諸岡靖彦ガバナーはじめ関係各位、そして何よりグループ内4クラブの心優しき会長・幹事をはじめ、会員各位のご協力に支えられ、貴重な経験をさせていただいたことに心より感謝申し上げます。



第9グループガバナー補佐
保津 豊徳 (佐原香取RC)

ガバナー補佐の任期もわずかとなりました。この1年間、台風15号・19号の被害対策、新型コロナウイルス感染拡大への対応と、例のない事態が起きました。この間の諸岡靖彦ガバナー、堀口路加幹事長、地

区役員の皆様による活動の継続、温かい見守りとご指導に深く感謝申し上げます。

今年度の情報研修会、I・Mは自分たちでロータリー活動を考え、お互いの考えを聞き、元気なロータリークラブを目指す意思がありました。予想以上の活発な意見交換が行われ、年齢やロータリー歴の違いを超え、お互いの考えを理解することでつながりが強固になったと感じました。

東日本大震災からも立ち上がった千葉県です。「ROTARY CONNECTS THE WORLD」そして、「ロータリーから千葉を元気に」をもう一度念頭に置き、任期を終えたいと思います。

最後になりましたが、ロータリアンの皆様の友情に深く感謝申し上げます。



第10グループガバナー補佐
寒郡 茂樹 (富里RC)

20世紀半ばからのポリオの流行は、いよいよ終息まであと一息という状況であり、ゴールも見え始めています。現在の新型コロナウイルスのパンデミック状態を考えると、いかにロータリーの活動が意義あるものであったかを感じざるを得ません。

2019-20年度の前半は、精力的に各クラブの方々との交流を行い、良い関係を築けた半年間であったと思っています。しかしながら、年度後半はウイルスに振り回された半年となってしまいました。第10グループで計画していた、成田空港でのグループ内ロータリアン参加による「END POLIO」活動を主としたI・Mを中止せざるを得ない状況になったことは、大変残念です。

各クラブの例会も中止となっていますが、インターネットを使ったウェブ会議や、SNSやYouTubeなどを利用した会員同士のコミュニケーションの試みは、今後のロータリー活動の活性化につながっていくのではないかと感じています。

1年間ありがとうございました。



第11グループガバナー補佐
上村 文明 (我孫子RC)

ガバナー補佐を引き受けて、ガバナーをはじめとする地区役員の皆様、そしてグループ各クラブの会長・幹事の皆様と、大変有意義で楽しい年度を共に過ごさせていただいたこと、感謝申し上げます。

思えば、ガバナー補佐の候補指名をいただいた時、クラブから補佐幹事を指名させていただいた上で、共に活動してまいりました。わがクラブと補佐幹事に感謝いたします。2018年9月の第1回の補佐会議に始まり、11回の補佐・地区役員会議の中で多くの知識を、7回のグループ会長・幹事会、各クラブ訪問で多くの仲間の心を得ることができました。

当年度のI・Mにおいては、あらゆる場面での「つながり=Connect・継続性=Continue」を考え、単年度制のクラブ運営にどう落とし込んでいくのか、戦略計画委員会の設置等がこれからの課題になるとの認識で取り組みました。

日に日に厳しさを増す新型コロナウイルス拡大の中で、2月18日にI・Mがかりうじて開催されたことは、現下の状況を考えると誠に幸いであったと思うところです。その後のすべてのロータリー活動が中止に至り、リモート会議等フェーズを一段進めなければならないと考えますが、ロータリー活動は仲間との認識と行動共有こそが大切であるとの思いで、これからも活動していきたいと思っています。

次年度の皆様のご健闘を心より祈念いたします。



第12グループガバナー補佐
猪飼 清文 (八千代中央RC)

前半期を振り返るより、後半期の強烈な状況を感じる1年となりました。この文面が掲載されるころは、本来、次年度への引き継ぎで達成感のある時期のはずでした。I・Mをメインにグループコンペ、会長・幹事会等いろいろな行事の予定がすべて中止となり、次

年度の会長の発表の場でありました I・M が中止になったのは、残念でなりません。次年度会長には、I・M にて発表していただく予定の内容を送付してもらい、各クラブに発送することにしました。

また、社会状況がいつ戻るか分かりませんが、各クラブの例会も中止になっておりますので、会員のロータリーに対する関心が薄れないように、各クラブ会長・幹事の皆様には各会員への密なる連絡をお願いし、地区から送付されてくる号外を活用してくださいとお願いしております。ガバナー事務所から送られてくるメールは、各クラブ会長・幹事へ転送し、グループ内の情報共有を実践しております。



第13グループガバナー補佐
森谷 博 (松戸中央RC)

今年度のガバナー補佐の活動は、7月の第13グループの5クラブへの訪問から始まり、9月の諸岡靖彦ガバナーの公式訪問、10月のロータリー情報研修会、年が明けて2月の I・M の開催と順調にまいりましたが、この I・M の時から新型コロナウイルスの脅威が身近に迫ってきました。

ルーマニアとドミニカ共和国の方に講演を依頼していましたが、ルーマニアの通訳の方が、ウイルスの関係で急遽欠席となり、通訳なしでの講演となりました。また、5月の5クラブ親睦チャリティーゴルフ大会は、新型コロナウイルスが猛威を振るい始めて、政府による緊急事態宣言により残念ながら中止となりました。

いつも災害は忘れた頃にやってくると言われておりますが、最近は忘れないうちにやってくるようになりました。私の記憶では、阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本大地震、毎年のように日本を襲う大型の台風等です。去年は、台風が関東地方を直撃し、千葉県も大きな被害を受けました。幸いにも第13グループは無事でしたが、年が明けての新型コロナウイルスの拡散は、日本国中に拡がり、第13グループも例外ではありませんでした。

3月後半から4月、5月の例会が取りやめになり、これからどのように収束し終息していくのかまだ分かりません。今後のロータリー活動に多大な影響を与え

ていくのは間違いありません。このような未曾有の危機にどのように対処していくのか、ロータリーに課せられた今後の大きな課題であると思われます。

この機会を捉えて、ロータリーの在り方を会員が議論し、今後のロータリー活動の方向性を見出していければと思います。

災害に負けずに頑張っていきましょう。



第14グループガバナー補佐
山崎 達男 (野田セントラルRC)

COVID-19 (新型コロナウイルス) が世界中に猛威を振るう中で、この原稿を書いています。7月の東京オリンピック、パラリンピック延期がすでに決定し、6月のホノルル国際大会も中止が決定という異常事態の中です。千葉県は昨年秋の相次ぐ台風被害の傷がまだ癒えてはいません。このようなかつて誰も未経験の甚大被害の天災が相次ぐ状況下にあります。

私ども第14グループの主要行事は当初の予定通り実施できましたことは、大変幸運でありました。その節は関係各位に多大なご協力を賜りましたこと、感謝申し上げます。

ロータリー活動がごく普通に、例年のごとく実施できることがどれほど貴重でありがたいことか痛感しております。週に1度会員同士が集う例会のルーティンが崩れ、ロータリーとしての絆が弱まっています。会員それぞれが変化した習慣、先の見えない不安に戸惑っている状況です。

しかし、こういう時こそロータリアンとして、例会、奉仕、親睦について柔軟に多様性をもって進むべき方法を探す努力が求められていると思います。道は必ず開けることを信じて、1、2年後「COVID-19のおかげでこんなことができるようになった」と言えるように。

文庫通信(382号)

新型コロナウイルス感染の拡大はロータリー活動に多大な影響を与えています。ハワイでの世界大会は中止となりました。国内においても、PETSや地区大会の中止を余儀なくされました。その中で、特に「幻の講演」となったD2650地区大会R I会長代理の鳥居PDGの「R I現況報告」を掲載します。

また「緊急事態宣言」により、外出の自粛を要請され在宅時間が多くなり、ロータリーについて考える機会が与えられました。そこで今回は、115年を超えるロータリーの歴史の中で、ロータリーの奉仕哲学とその奉仕の実践に関する基本原理を簡明かつ的確に表現している「決議23-34」について、更に、国際ロータリーという組織の本質は何かを考える意味で、2019年規定審議会で事務総長に与えられた「CEO(最高経営責任者)」という名称が何を意味しているかについて、考えていただければと思います。

- R I現況報告「ロータリーの変遷と本質」(D2650地区大会 R I会長代理) 鳥居 滋/岡山東RC D.2690PDG 2020 13P
- 決議23-34はロータリーのキ・ポイントである(増補改訂版 関西ロータリー研究会) 末積 正/神戸RC D.268 1987 125P
- 決議23-34 歴史的背景と意味(D2680 職業奉仕講演会)(P.P.T.174枚) 刀根 莊兵衛/敦賀RC D.2650PDG 2018 17P(29P)
- CEOとして最強の権限を与えられた事務総長(追加資料提供: D.2650PDG刀根 莊兵衛) 田中 毅/尼崎西RC D. 2680 PDG 2020 4P(13P) (上記申込先: ロータリー文庫)

—ロータリー文庫—

〒105-0011 東京都港区芝公園 2-6-15 黒龍芝公園ビル3階 TEL. 03-3433-6456 FAX. 03-3459-7506
<https://www.rotary-bunko.gr.jp> 開館: 午前10時~午後5時 休館=土・日・祝祭日

(公財) ロータリー米山記念奨学会ニュース (ハイライトよねやま Vol.241)

今月のトピックス

- ・新型コロナ感染拡大の中で迎える新学年度
- ・自宅でできる奉仕活動を — タイ米山学友会 —
- ・寄付金速報 — 新型コロナの影響続く —
- ・Web 感謝祭に反響多数! — 関西米山学友会 —
- ・ミャンマー米山学友会が総会を開催

《今月のピックアップ記事》

新型コロナ感染拡大の中で迎える新学年度

4月から新学年度が始まりました。

4月7日、新型コロナウイルスの全国的な感染拡大を受け、7都府県に緊急事態宣言が発令されたことから、当会では翌8日付で、2020学年度の新規奨学生および継続奨学生に対し、「挨拶ならびに大切なお知らせ」として、現在の状況説明、今後守るべき諸注意事項などをホームページに掲載すると共に、各人にメールで送信しました。

例年、4月に各地区で開催される米山奨学生のオリエンテーションについては、4月13日現在、中止が16地区、延期が11地区となっており、開催する場合も分散して小規模にと、「3密」を避けての実施が徹底されています。

オリエンテーションは、新しくロータリーファミリーの一員となった米山奨学生を歓迎すると同時に、米山奨学生としての責務を確認してもらい重要な機会ですが、感染拡大防止を第一にさまざまな形を工夫し、各地区、世話クラブで奨学生へのケアにご尽力いただいておりますことに、あらためて感謝申し上げます。平時とは異なるスタートですが、新学年度の米山奨学生をどうぞよろしくお願いいたします。

寄付者紹介(敬称略)

ロータリー財団寄付

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー



山崎 新一
(船橋東RC)
6回目

新ポール・ハリス・フェロー



道永 幸治
(船橋RC)

米山功労者



甲田 直弘
(成田RC)
1回目

新ロータリアン(敬称略)



大槻 祐介
(市原RC)
サービス業
11月6日入会



鵜澤 勝好
(市原RC)
足場仮設工事業
2月5日入会



中西 洋明
(市原RC)
自動車整備業
4月1日入会



大島 章司
(習志野RC)
商業銀行
4月1日入会



久島 幹雄
(習志野RC)
室内装飾設計
5月12日入会



富 昭浩
(習志野RC)
ビジネスサービスマン
5月13日入会

国際ロータリー第2790地区(千葉) 暫定出席記録・会員数報告(2020年4月分)

グループ	クラブ名	出席率 (%)	例会数	会員数				
				2019 7/1	女性	当月	女性	増減
第1グループ	市川	0.00	0	42	3	41	4	△1
	市川東	0.00	0	42	2	39	2	△3
	市川南	0.00	0	23	2	23	2	0
	浦安	0.00	0	42	1	43	1	1
	市川シビック	0.00	0	33	0	33	0	0
第2グループ	浦安ベイ	86.66	1	15	0	15	2	0
	平均	14.44	0.17	32.83	1.33	32.33	1.83	△3
	船橋	0.00	0	30	0	30	0	0
	船橋西	0.00	0	39	7	33	7	△6
	鎌ヶ谷	0.00	0	30	2	27	1	△3
第3グループ	船橋東	0.00	0	29	2	28	2	△1
	船橋南	0.00	0	11	1	13	2	2
	船橋みなと	0.00	0	18	4	18	4	0
	平均	0.00	0.00	26.17	2.67	24.83	2.67	△8
	千葉	0.00	0	96	3	100	5	4
第4グループ	新千葉	0.00	0	55	0	53	0	△2
	千葉西	0.00	0	50	4	55	6	5
	千葉中央	0.00	0	27	0	26	0	△1
	千葉幕張	0.00	0	34	3	37	4	3
	千葉東	0.00	0	29	2	28	2	△1
第5グループ	千葉若潮	0.00	0	30	1	31	1	1
	平均	0.00	0.00	45.86	1.86	47.14	2.57	9
	千葉南	0.00	0	47	7	50	5	3
	市原	62.26	1	52	4	61	5	9
	市原港	0.00	0	25	4	27	4	2
第6グループ	市原中央	0.00	0	47	1	46	1	△1
	千葉北	0.00	0	29	4	30	4	1
	千葉緑	0.00	0	21	1	23	2	2
	平均	10.38	0.17	36.83	3.50	39.50	3.50	16
	木更津	0.00	0	31	5	29	4	△2
第7グループ	上富津	0.00	0	14	0	15	0	1
	富津中央	0.00	0	35	2	38	5	3
	木更津東	70.00	1	44	5	46	7	2
	君津	0.00	0	57	5	53	5	△4
	袖ヶ浦	0.00	0	24	4	26	4	2
第8グループ	富津シティ	0.00	0	14	1	14	1	0
	平均	10.00	0.14	31.29	3.14	31.57	3.71	2
	館山	0.00	0	46	4	47	4	1
	鴨川	0.00	0	34	5	33	5	△1
	勝浦	0.00	0	41	5	43	5	2
第9グループ	千倉	50.00	1	4	2	4	2	0
	鋸南	0.00	0	15	2	15	2	0
	館山ベイ	0.00	0	24	0	25	0	1
	平均	8.33	0.17	27.33	3.00	27.83	3.00	3
	茂原	0.00	0	58	4	60	4	2
第10グループ	東金	0.00	0	19	1	21	2	2
	大原	80.00	1	10	1	10	1	0
	大多喜	0.00	0	5	1	6	1	1
	成田空港南	68.00	1	31	0	29	0	△2
	茂原中央	0.00	0	20	2	22	2	2
第11グループ	大網	0.00	0	29	1	30	2	1
	東金ビュー	0.00	0	16	1	16	1	0
	平均	18.50	0.25	23.50	1.38	24.25	1.63	6

グループ	クラブ名	出席率 (%)	例会数	会員数				
				2019 7/1	女性	当月	女性	増減
第8グループ	銚子	0.00	0	39	3	39	4	0
	旭	76.60	3	43	4	42	4	△1
	八日市場	75.00	1	38	3	40	3	2
	銚子東	0.00	0	33	2	32	2	△1
	平均	37.90	1.00	38.25	3.00	38.25	3.25	0
第9グループ	佐原	0.00	0	48	0	48	0	0
	多古	0.00	0	16	0	19	0	3
	小見川	0.00	0	27	0	27	0	0
	佐原香取	0.00	0	24	1	23	0	△1
	平均	0.00	0.00	28.75	0.25	29.25	0.00	2
第10グループ	成田	0.00	0	65	4	67	4	2
	八街	0.00	0	30	3	30	3	0
	印西	0.00	0	16	1	16	1	0
	白井	0.00	0	12	1	11	1	△1
	成田コスモポリタン	52.47	2	67	0	73	0	6
第11グループ	平均	8.75	0.33	36.67	1.50	38.17	1.67	9
	柏	0.00	0	65	10	64	9	△1
	我孫子	0.00	0	31	3	32	3	1
	柏西	0.00	0	64	3	57	3	△7
	柏東	0.00	0	41	8	39	7	△2
第12グループ	柏南	0.00	0	41	9	39	9	△2
	平均	0.00	0.00	48.40	6.60	46.20	6.20	△11
	習志野	77.78	1	24	1	29	1	5
	八千代	0.00	0	52	0	54	0	2
	佐倉	0.00	0	37	3	38	3	1
第13グループ	八千代中央	0.00	0	23	1	25	1	2
	四街中央	0.00	0	29	4	27	4	△2
	習志野中央	0.00	0	47	4	47	5	0
	佐倉中央	52.17	1	23	5	23	6	0
	平均	18.56	0.29	33.57	2.57	34.71	2.86	8
第14グループ	松戸	0.00	0	60	0	57	0	△3
	松戸東	0.00	0	49	0	48	0	△1
	松戸北	0.00	0	33	0	33	0	0
	松戸中央	100.00	3	42	7	43	7	1
	松戸西	0.00	0	29	0	28	0	△1
第15グループ	平均	20.00	0.60	42.60	1.40	41.80	1.40	△4
	野田	0.00	0	54	6	55	6	1
	流山	0.00	0	14	3	16	3	2
	野田東	0.00	0	18	0	18	0	0
	流山中央	0.00	0	21	2	22	2	1
第16グループ	野田セントラル	72.00	1	25	1	25	1	0
	平均	14.40	0.20	26.40	2.40	27.20	2.40	4

クラブ数 82RC		
2019年7月1日	地区会員数	2,777人
2020年4月末日	地区会員数	2,810人
2019年7月1日	地区女性会員数	201人
2020年4月末日	地区女性会員数	216人
	当月平均出席率	11.00%
	増減	+33
	女性会員増減	+15

「ロータリーレート」のご案内

ロータリーレートのご確認につきましては、右記QRコードから「地区HP」をご確認いただきますようお願い申し上げます。





ガバナーエレクトが次期幹事長にインタビュー

「2020-21年度に向けて 新しい扉を開く」



Setsuko : 漆原摂子ガバナーエレクト

Rie : 吉田理愛次期幹事長

S 全世界的に新型コロナウイルス禍一色、大変なスタートとなりましたね。

R 2020-21年度は日本のロータリー100周年となりますが、今までの日本のロータリーの歴史の中で、このような状況下でのスタートは初めてなのではないでしょうか？ 日本ロータリー史上最悪の受難期とされる1938~40年代など戦争や世界恐慌、自然災害など受難の年は幾度となくありましたが、今まさに世界各国で起こっている疫病との闘いを半年前に想像することなど、誰一人できませんでした。国際大会やR I会長主催のさまざまな会議も中止となったことは大変残念です。

S 第1回PETSと地区チーム研修セミナーを、さまざまなご意見があった中、開催することができたのは大きかったし、参加してくださった皆様にも感謝ですね。

R 1月の終わりごろ、最初にこの新型コロナウイルスの報道が出た時には、まさかここまでのウイルスとは誰にも想像できませんでした。エレクトが国際協議会から帰国し、次年度へ向けてのメッセージ、地区の方針やスローガンを決め、新しいメンバーとの船出というところに、まるで試練のようなコロナウイルス。しかしR Iからのさまざまな提案やプログラムを活用して、3大セミナーも終了することができました。

特に今回は新たなチャレンジとして、オンライン配信という形での地区研修・協議会となりました。

慣れない録画なども諸岡靖彦ガバナーはじめ青木貞雄研修リーダーや地区委員長の皆様方のご協力の下、完成することができました。

S 次年度R Iテーマ「ロータリーは機会の扉を開く」の下、次年度は地区内各クラブが主役となって、奉仕の理念の実践を！という活動方針を出しました。早くコロナ禍が終息して、皆さんにさまざまな奉仕活動を実施していただきたいですね。

R まさに2020-21年度のスタートは機会の扉を開くとなりました。例会の実施もままならない状況ですが、それに対応すべく委員会や理事会なども、ZOOMなどを利用したオンライン会議にチャレンジを始めているクラブもあるかと思います。苦難な状況下でもその立場に屈することなく、可能なことを見つけ出し、扉を開くことこそロータリーだと思います。

S オリンピック・パラリンピックは延期となりましたが、諸岡ガバナーのスピリットは継承させていただき、地区をさらにブラッシュアップしたいですね。

R Festive Year委員会の立ち上げも新しい扉となります。延期とはなりましたが、その分じっくりとプロジェクトを練る時間をいただけたと受け止め、諸岡ガバナーのイメージしたおもてなしの形を聖火のように引き継ぎ、梶原年度へとバトンタッチする。そしてコロナが終息した暁には、第2790地区一丸となって、100周年記念プロジェクトでお祝いしたいと思います。

最後にポール・ハリスの言葉より「私の知る限りでは、ロータリーには『できない』と『できる』との葛藤で、『できない』が永遠の勝利を収めたことは一度もありません。広大なビジョン、崇高な目的は必ず勝利を収めます。」

S 改めて1年間、よろしくお願ひします。ありがとうございました。